

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経済学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
小項目	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）（専門）

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. GPA (Grade Point Average) の実質化 (例. 課程修了認定、奨学金推薦、および研究科進学、などの要件) により、学生の経済学専門能力の水準を引き上げる。	→卒業時におけるGPA。GPAに基づく奨学金獲得者数や研究科への進学者数。	C	B			
2. ERE (Economics Record Examination: 経済学検定試験) や日経TESTによる経済学専門能力の単位認定をする。	→ERE (Economics Record Examination: 経済学検定試験) や日経TESTの受験者数とその成績 (平均点)。	C	C			
3. ゼミナール (基礎演習や研究演習) 活動を報告、公表する。	→HPでのゼミナール活動に関する報告の公表、更新。および、アクセス数。	B	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.4.1	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。 (説明) 経済学という基盤を持った実践力を有した人材の育成を目的としており、就職決定率(2008、2009、2010)は(97.4%、96.4%、95.8%)2010年度の就職率(進学者を除く卒業生全員を分母とする)は85.3%と高い水準を維持している。また、成績優秀者による大学院(経済学研究科)進学の筆記試験免除制度(席次99位以内)なども周知され、問い合わせも多く、この制度により3名が入学し、早期卒業によるものを含むと7名である。HPにてゼミナール活動報告については把握できるものは順次アップしているが、更なる情報収集のための体系的な情報収集方法を検討中である。学生情報データを収集・統合し、指導資料とするためである。その他、GPAに基づく奨学金、一斉によるERE(経済学検定試験)や日経テストの一斉実施はしなかったが、入試形態別の入学者データ取得のため、「経済と経済学の基礎A・B・C」の入試形態別の成績調査を実施する方向で検討を開始した。
小項目6.4.2	6.4.2 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか。 (説明) 学位授与、卒業判定は適切に行われている。「基礎演習(1年)」、「研究演習入門(2年秋)」、「研究演習I(3年)」、「研究演習II(4年)」と「卒業論文(4年)」指導を課しているが、多様化する学生のニーズにより、「研究演習」と「卒業論文」の代替申請を認め、別科目の単位に読み替えるなどの措置をとり、残留することのないようにしている。
その他	

《評価指標データ》

- 各学部における学生の進路状況
- 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
- 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
- 在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
- 修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
- KGPSの修士学位・専門職学位の授与数
- 3年卒業の適用者数
- ジョイント・ディグリーの授与者数
- 標準修業年限未満の修了者の数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
☆小項目6.4.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

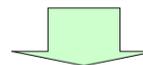
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
☆小項目6.4.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	毎年、GPA制度に基づく顕彰を行い、上位30パーセントを発表しているが、GPAを指標にした、課程修了認定、奨学金推薦、研究科進学の見直しはまとまっていない。
☆小項目6.4.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	GPAを指標にした、課程修了認定、奨学金推薦、研究科進学者と卒業後の評価の実効化について検討し、教育効果がわかりやすく見えやすい方法の検討。
☆小項目6.4.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

- 小項目6.4.2の「現状の説明」において、「『研究演習』と『卒業論文』の代替申請を認め…残留することのないようにしている」とありますが、「KG経済学士力」の学力保証の問題は生じていないのでしょうか。
- 前項にあった「学生カルテ」は、本項目のほうが適切と思われます。

【学内委員】

- 成果の向上、検証にも積極的にとりくまれていることが窺われます。
- GPAの実質化の方策として、研究科進学要件の緩和については筆記試験免除などにより着実に成果を挙げています。ただ、幾つか例示されている内、例えば奨学金支給要件とGPAの連動等は具体化されておらず、さらに検討を進めることが期待されます。
- 課程終了時もしくは課程修了後の学習成果を測ることは難しい問題ですが、目標を設定され努力されています。今後も継続して検討されることを期待します。
- 小項目6.4.2は、大学基準協会の留意事項を参考にされた記述を加えられるとより適切だと思います。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

- 小項目6.4.1
 - 基盤評価：なし
 - 達成度評価：「学生の学習成果を測定するための評価指標の開発及び教育内容・方法等の改善への活用に努めている」
- 小項目6.4.2
 - 基盤評価：「卒業・修了の要件を明確にし、あらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」「学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準（学位論文審査基準）を明らかにし、これをあらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」
 - 達成度評価：「学位授与方針に従って学位授与を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし